

獣医師は、家畜の健康を守ることによって 私たちの暮らしを支えることに貢献しています



家畜の健康を守る〈産業動物診療〉

私たちの食生活に欠かせないものとして、卵、牛乳、肉といった畜産物があります。これらを生み出しているのが牛や豚、鶏といった家畜です。この家畜の健康を守ることも獣医師としての重要な仕事です。

産業動物診療分野に従事する獣医師にとっての"患者"は、乳牛、肉牛、豚、鶏や競走馬などの家畜です。この分野で働く獣医師は、産業動物として私たちの暮らしと密接にかかわっている家畜の病気の予防・診療、飼養管理、衛生管理などのほか、繁殖の専門家として農業共済組合や産業動物診療施設で活躍しています。健全な飼養衛生管理が行なわれるように畜産農家の指導にあたるのも獣医師の大切な仕事となっています。

また、人工授精や受精卵移植など、家畜の改良増殖の仕事に従事する獣医師もあり、肉牛の増産などに貢献しています。

そのほか、ニジマス、ヤマメ、イワナなどを育てる養魚場でも、獣医師が水産試験場の技術者などとともに「魚病」の発見・予防のために努力しています。

獣医師は、貴重な食料資源でもある家畜を病気から守り、生産性を向上させることによって畜産農家とともに私たちの生活を支えています。

「受精卵移植」って知っていますか？

質の高い家畜をより多く生み出すことが期待される最新のテクノロジー

「受精卵移植」とは、人工授精した受精卵をメスの子宮から取り出して他のメスの子宮に移植する技術です。採取した受精卵は、すぐに移植されるか、あるいは一度凍結保存されたのち、適切な時期に移植される場合があります。受精卵の大きさはほぼ150ミクロン。もちろん肉眼では識別できません。移植には受精卵を顕微鏡下で2分割したのを使います。この技術により、家畜の品種改良や肉牛の増産が可能になるとされ、大きな期待が寄せられています。

現在さまざまな機関で受精卵移植の積極的な活用に取り組んでいます。獣医師は、このような家畜の改良増殖の分野でも活躍しています。



移動しながら飼養現場で診る

牛や馬といった大型の家畜の場合は、犬や猫などの小動物と違って、診療施設で治療することができません。そのため、獣医師が自ら畜産農家へ行き、現場で治療を行う必要があり、飼養現場が診療室となります。獣医師は、その場で診断を行い、ただちに投薬などの必要な処置を施します。

この仕事は畜産農家を巡回することが多く、1日100km近く移動することもまれではありません。このため、最新の知識や優れた専門技術だけでなく、強靱な体力や臨機応変に対応するための判断力なども要求されます。

大切なのは農家との信頼関係

安心・安全な畜産物を安定して供給し続けるためには、家畜の病気予防も大切であり、農家へのアドバイスも獣医師の重要な仕事のひとつです。そのためには経験や知識、最新の情報などはもちろん、生産者との信頼関係を築くことも重要となります。生産者との積極的なコミュニケーションを図り、安全性や生産性の向上に努めることも獣医師の役割として大切なことなのです。



感染症から家畜を守るために

大規模な畜産の場合、問題となるのは個々の病気ではなく、そこで飼育されている多くの家畜に影響をもたらす感染症です。そのため、従来の病気の治療や予防だけでなく、「群れ」としての家畜の管理も獣医師の仕事となります。

大規模農家からはさまざまな生産データが獣医師のもとに送られてきますが、獣医師は自らそれらを精査し、農家を巡回しながら的確なアドバイスをします。群管理で最も重要となるのは病気を出さないこと。私たちの暮らしに必要な不可欠な産業である畜産の安全性を維持・向上させるために、獣医師は日々努力を重ねています。

生産の一環にいる獣医師

産業動物診療分野で働く獣医師たちは、肉や牛乳など、私たちの暮らしになくてはならない食料の生産に深くかかわっています。食品の安全性が大きく取りざたされる昨今、獣医師の果たすべき役割はますます重要なものになっています。また、生産物の安全性についての正確な情報を消費者に対して発信していくことも獣医師の果たす役割のひとつであると考えています。



～大型診療車での往診～

家畜の診療には、開業獣医師だけでなく、農業共済団体などの獣医師も従事しています。そのような団体の中には、検査のための精密機器を積み込んだ大型診療車を備えているところがあります。このようなハイテク診療車を利用することで、迅速な検査と診断が可能になります。